

授業改善書

科目名	教育心理学
担当者	太田絵梨子

授業の概要

人間の発達と学習過程に関する諸概念について、教育実践現場における様々な問題と結びつけて理解することを目的とした。授業では、教育心理学の知見について具体例を交えながら解説した上で、実践的なテーマ（例：高校に入学して学習に対するやる気がなくなってしまった生徒の事例）を提示し、学生同士での理解確認やディスカッションの時間を積極的に設けた。

授業の問題点

講師から説明した内容について、学生が理解できているかを確認するため、ペアで教え合う活動を取り入れた。そのときの様子から、教授した内容を誤って理解していたり、自身の被教育経験に基づいた偏った解釈をしている学生が少なくないことが分かった。次年度以降は、このようなつまづきを事前に想定し、よくある誤解を提示するなど、説明のしかたや教材を工夫する必要があると考えられる。

また、今年度は教科書を指定せず、講師が作成したプリントを用いて学習を進めたが、学生による主体的な予習・復習を促すためには、教科書等の学習リソースをもっと活用する必要があるだろう。

学生の授業満足度

全体的な授業満足度を尋ねたアンケート項目の平均評定値は4.71（5件法）であり、学生の満足度は概して高かったものと推察される。一方、平均評定値が4を下回った項目は、「授業外学習をしましたか（3.91）」と「質問や発言をしましたか（3.97）」の2つだった。特に後者については、毎回の授業でペアでの教え合いやディスカッションを取り入れていたにもかかわらず、相対的に低い値となったのが意外であった。講師から話し合いをするよう指示された上での発言だけでなく、学生自らが主体的に質問や発言をしたという感覚を持ってもらえるよう、授業づくりを工夫していく必要があるだろう。

授業改善の課題と方策

以上の問題を踏まえ、次年度以降は次のような方策をとりたい。

- ①学生が陥りやすい誤解をあらかじめ明確化し、授業での説明や教材作りに生かす。
- ②学生による主体的な授業外学習を促すため、教科書等の学習リソースや Teams のチャット機能を積極的に活用する。
- ③学生自らが質問や発言をしたいと思えるような工夫を取り入れる。例えば、予習して疑問点を挙げさせておく、授業後の振り返りシートに書かれた質問に丁寧に回答する、などが考えられる。

その他

授業改善書